

なでしこリーグのキャリア支援の現状と女子サッカー選手のセカンドキャリア A Study of the Reality of Career Support in the Nadeshiko League and the Second Career of Female Football Player

1K09A093-4 後藤 三知
指導教員 主査 堀野 博幸 先生 副査 石井 昌幸 先生

I. 序論

1. 背景

第6回FIFA女子サッカーワールドカップで日本代表（愛称;なでしこジャパン）の初優勝以降、ロンドンオリンピックの銀メダル、日本開催のFIFA U-20女子サッカーワールドカップの銅メダルと日本の女子サッカーは躍進を続けている。

これらは、財団法人日本サッカー協会（以下、JFAと略記）のリーグ発足をはじめとする様々な強化策の賜物であると言えることができる。しかし、継続して世界のトップでいることは極めて難しい。そのため、本研究では、1)なでしこリーグ所属チームと2)なでしこリーグの元選手を対象に2つの調査を行い、選手のキャリアを中心に、なでしこリーグの現状と課題を整理し、それらに考察を加えることで、女子サッカーを取り巻く環境の改善を図り、なでしこリーグ及び日本女子サッカーのさらなる発展に寄与することを目的とする。

II. 調査①

1. 方法

まず、なでしこリーグに所属する10チームを対象に、(1)社会人、学生、プロ選手の人数を、インターネット及び聞き取りにより調査した。その上で、(2)各チームの社会人選手の雇用形態についても、同様の方法を用いて調査を行なった。

続いて、特徴的なクラブである浦和レッドダイヤモンズレディース(以下「浦和L」と略す)と岡山湯郷Bell(以下「湯郷ベル」と略す)に対して、文献調査及び、選手、関係者へのインタビューを実施し、さらに詳しい調査を行なった。

2. 結果

チームを対象とした調査結果は、表1の通りである。

表1.各チームの社会人、学生、プロ、その他の人数。

	登録数	社会人	学生	(大学生)	(高校生)	プロ	その他
INAC神戸レオネッサ	20	0	0	0	0	20	0
日テレ・ベレーザ	24	10	12	6	6	2	0
岡山湯郷Bell	18	15	1	0	1	2	0
浦和レッズレディース	28	13	12	12	0	3	0
アルビレックス新潟レディース	23	17	6	6	0	0	0
ジェフ市原・千葉レディース	30	17	8	3	5	0	5
伊賀フットボールクラブノース	21	21	0	0	0	0	0
スベラントFC大阪高槻	27	18	5	5	0	4	0
ASエルフェン狭山FC	27	23	2	2	0	0	0
福岡Jアンクラス	27	16	1	0	1	3	2

社会人、学生、プロ選手の割合は、チームによって大きく異なることが分かった。また、社会人選手についても、所属する社会人選手全員がチームの幹旋先で働くチームがある一方で、企業への幹旋を全く行っていないチームをあり、ここでもチーム間の大きな差が見られた。

浦和Lはリーグ下部組織であり、湯郷ベルは官民一体となって地域から生まれたクラブである。両者の環境は、スポンサーや所

属選手数といった様々な点で異なる。最も大きな違いは、浦和Lが大学生選手12人であるのに対し、湯郷ベルは0人という所属選手の割合である。

III. 調査②

1. 方法

まず、調査①と同様に、チームに対して、選手へのキャリア支援に関する調査を電話にて行なった。

続いて、日本女子サッカーリーグに在籍経験のある元選手10人に対して、現役時代から現在までのキャリアに関する調査を、インタビューとアンケートで行なった。

2. 結果

チームを対象とした調査結果は、表2の通りである。

表2.各チームのセカンドキャリアの現状。

	セカンドキャリア支援についての回答	選択肢・備考
INAC神戸レオネッサ	・スポンサー企業の幹旋可能	事務員/レストランのウエイテレス/グループ会社での雇用・0からのスタート
日テレ・ベレーザ	・親会社の系列の幹旋可能 ・チームにコーチとして雇用するケースもある	日本テレビ/系列子会社/クラブ ・クラブのおかれている環境で変わる
岡山湯郷Bell	・現役中の幹旋先での継続雇用可能 ・新たな就職先の幹旋はない ・指導者としての選択肢もある	・現役中の幹旋先での継続雇用期間は各会社によって異なる
浦和レッズレディース	・現役中の幹旋先での継続雇用可能	事務系・雇用条件の変更あり
アルビレックス新潟レディース	・サッカーに関わる仕事の幹旋 ・地元新潟でそのまま生活したい場合は相談に応じる	サッカー関係/地元企業 ・希望を聞いて対応する
ジェフ市原・千葉レディース	・チームからの支援はない ・今後検討する予定もない	・特になし
伊賀フットボールクラブノース	・現役中の幹旋先での継続雇用可能 ・指導者としてクラブに残ることも可能	・特になし
スベラントFC大阪高槻	・何もできていない/考えていない ・可能性としてはスポンサー会社での正社員	・特になし
ASエルフェン狭山FC	・現役中の幹旋先での継続雇用可 ・新たな就職先は紹介できない	・入団時に話し合いをする
福岡Jアンクラス	・事務職か下部組織で働く選択肢あり ・スポンサー企業の幹旋は可能	事務職/クラブ ・幹旋は具体的な相談があれば可能

元選手を対象とした調査では、選手がチームや協会の支援を受けずに、自身の意思と周囲の助言によってキャリアを選択してきたことが明らかとなった。

IV. 総合考察

調査の結果、現在のなでしこリーグに所属するチーム間の選手を取り巻く環境の差が明らかとなった。このチーム間の差をなくすために、選手を取り巻く環境整備を検討していくべきである。それと同時に、選手自身が意識を高く持ち、レベルアップを図っていくことも必要である。どれだけ環境が整備されても、実際にプレーをする選手自身が、パフォーマンスの向上のために、常におかれた環境の中で最善を尽くしていくことを怠ってはならない。その上で、なでしこリーグに所属するクラブの「キャリア支援」と女子サッカー選手の「セカンドキャリア支援」を整えていくことで、なでしこリーグの全体のレベルアップにつながっていくであろう。これらのことから、現在のなでしこリーグにおけるキャリア面での環境整備をしていくことに加え、なでしこリーグでプレーする選手自身が、常におかれた環境の中で最善を尽くしていくことが、今後のなでしこリーグの発展に必要であるといえるのではないだろうか。